

ハイチ経済関連報道（２０１３年１月）

報道日	報道内容
８日	ギヨーム保健大臣が、コレラ菌感染リスクは２０１２年に大幅に減少しており、３年以内にコレラを根絶させるという目標を示した。
８日	２０１２年１２月の関税収入が、２４億２０７万７５４３．６６グルドに上り、前年同月より２億グルドの増収となった。
１０日	ドルの人為的な需要を抑え、取引通貨としてのグルドの使用を促すため、２０１３年２月４日以降、国内におけるクレジットカードでの取引はグルドで行われることになる。
１３日	２０１１年１０月に GRAFI（カリブ諸国 FATF（金融活動作業部会））に加盟した当国は、今年３月末までにマネロン・テロ資金供与対策法を制定しなければ、ブラックリストに掲載され、重い制裁を受けることになる。
１５日	マルテリー大統領が、レカイ・ジェレミー間(Cayes-Jérémie)、アンシュ・カパイシアン間(Hinche-Cap Haïtien)の道路完成を約束するとともに、南部の空港建設、ポルトープランス郊外の２商用港建設等、２０１３年のインフラ計画につき発表。
１８日	ラモット首相がペトロカリベ基金によるインフラ整備計画について発表。ハリケーンなどの際の避難者を収容する１０シェルターの建設等。
１８日	同首相がレカイ市の港改修、空港建設、大学キャンパスの設置に関する準備作業の開始を発表。
１８日	ジャン・マリ経済・財政大臣が、第１四半期（１０～１２月）の歳入が１５７億グルド、歳出が１４４億グルドだったことを明らかにした。当初予測の７６％の歳入しかなく、ペトロカリベ基金、EU からの財政支援の他、３か月国債を発行した。
１９日	投資・ビジネス環境の改善を目的として、２月から、ドミニカ共和国との二国間合同委員会の委員に企業関係者を加える。
１９日	地方への郵便物配達曜日が変更された。月曜がキャバレ、サンマルク、ゴナイーブ、火曜がミルバレ、アンシュ、木曜がレオガン、プチゴアーブ、ビューブールダカン、レカイ、金曜はジャクメル。
２３日	投資誘致を進めるため、株式会社登記プロセスの電子化に向けたワーキング会合が首相府で開催された。
２３日	世銀が発表した当国の２０１３年経済成長率は約６％と予測されており、カリブ海地域でトップ。
２８日	カルフル市トルランド６５に経済特区を設置。５０万人の雇用創出が期待される。

29日	当国小規模企業約 65000 社が、EU の支援により、自然災害による損失を補填する保険に低コストで加入できるようになる。
30日	当国には現在国際空港が 2 つしかなく、空港へのアクセスが良いポルトープランスへの一極集中を招く一因となっている。当国南部レカイ市に第 3 の国際空港建設が望まれる。
30日	ラモット首相がダボス会議で当国への投資を呼びかけた。
30日	ハイチ及びドミニカ共和国は、二国間合同委員会にエネルギー分科会を設置することに合意し、電力問題について協議することになった。将来的にドミニカ共和国の電気を購入できるようになるかどうかについては明言されていない。
31日	ハイチ経済学者連合会長である経済学者ラボシエール氏によれば、当国第 2 の都市であるカパイシアンで行われるカーニバルの経済効果は非常に大きい。
31日	レカイ市にホテル・観光に関する教育機関の開校が 3 月に予定されており、募集を行っている（定員 60 名）。

* 当国各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。